

⑤怒り上手になる！

「発達が気になる子どものことを怒ってはダメなんですよ？」

保護者や先生方によく聞かれる質問です。

怒ってはいけない・わけではありません。してはいけないこと、危ないことなど、ルールをきちんと教えることは大切です。ニコニコと笑いながら「窓から顔を出しちゃダメ」と言っても真実味がありませんので、厳しい顔をして伝えるべきです。これを「怒る」と表現するなら怒ることも必要ですとお答えします。



しかし、あまりおすすめできない怒り方もあります。言葉の理解が難しい子どもに長々と説教をするのはどうでしょうか？「怒る」ことは自分がスッキリすることではないのです。子どもにどれだけ正確に伝わるかが大切です。長々と意味の分からないことを聞かされ、結局「じゃあ、どうすべきだったのか」を教えてもらわなかったら、次からまた同じことを繰り返してしまいます。

怒るときには、シンプルな分かりやすい言葉で伝えましょう。絵やカードを使うのも良い方法です。「お友達の気持ちも考えてごらん！」「そんなことされたらみんなどう思うのかな？」などの難しい質問もお勧めしません。

また、子どもがしてはいけないことをしてしまってから 1 時間後に怒るのはどうでしょうか？先生が何について怒っているのか、どれがしてはいけないことだったのかが分からず、混乱してしまうかもしれません。もしくはそのこと自体を全く憶えていない可能性もあります。タイミングを逃さず、怒るようにしましょう。



みゆきちゃん！なんでお友達を叩いたの？お友達がどういう気持ちだったかわかる？すごく痛かったし、悲しい気持ちだよ。悲しい気持ちってわかる？心が痛くなることだよ。みゆきちゃんはそのようなことで、心が痛くないの？いつも先生言ってるでしょ？お友達のことは絶対に叩いてはいけませんって・・・

お友達は叩きません！
「貸して」って言いましょう



ルール⑤：シンプルに分かりやすい言葉で怒る！

